

入社以来28年間、技術畑一筋に歩いてきただけに「現場の目線でトップダウンとボトムアップのバランスがとれた支社運営を目指したい」と第一声。昨今の公共事業および建設業バッシングの中で「社員のモチベーションを保ち、誇りを持って仕事ができる環境をつくらせていきたい」と抱負を語る。

建設から維持管理へのシフトを見据え「橋梁を始めとする構造物の管理計画だけでなく、公園や道路などの総合マネジメント業務の受注を目指したい」と事業展開の方向

支社長席



それ以上に発注者とずつと付き合えるコミュニケーション能力が重要だ。「顔」を覚えてもらい、



大日本コンサルタント
執行役員 東北支社長

くすもと よしのり
楠本 良徳氏

性を示す。

プロポーザルや総合評価落札方式などによる公共調達においては「技術力はもちろん大切だが、

信用を得ることで次につながる」と強調する。

1982年3月佐賀大理工学部土木工学科卒業、同年4月入社。道路

現場目線でバランス運営

計画を皮切りに交通、都市、環境計画など、さまざまな分野のプロシエクトに参画した。「専門分野は建設一般と笑うが、PI（パブリック・インボルブメント）にかけては同社のエキスパートの一人だ。「利用者らと協働して計画をつくれることがPIの魅力」という。前職は執行役員社会創造事業部長。7月1日付で15年ぶりの東北勤務に。趣味は「落語」で、大学時代は落語研究会に所属。出身高校の校訓という「自律・信愛・究理」が信条。長崎県佐世保市出身、51歳。